

3/  
24  
(月)

神と人に仕えて生きる

ルカによる福音書二〇章二一〜二六節

イエスは言われた。「それならば、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」。(25)

ローマ帝国の支配下にあったユダヤにおいては、民衆はローマ皇帝に税金を納める義務がありました。この納税の是非を巡ってユダヤ人の間でも意見が大きく分かれていました。律法学者たちはこの是非について主イエスを陥れようとして意見を求めました。ユダヤ宗教への忠誠とローマへの忠誠とは互いに両立しないと考えていたからです。主イエスは今日の聖句のように答えることによって、彼らの考えを根底から覆されました。キリスト者は何よりもまず神に仕え、神のものは神に返すべきです。けれども同時に、神は世界の秩序を人間に任せられたゆえ、キリスト者も人間として社会に果たすべき責任を負っています。それが「皇帝のものは皇帝に」ということです。この世に生きるキリスト者として、神と人との仕えて生きる大切な責任を果たして行きたいものです。